

## ＜平成 22 年度事業計画骨子＞

### ◇ 事務局 ◇

- 日臨技会館の健全な運営と維持管理に努めるとともに、総会をはじめとする諸会議の円滑且つ効率的な運営を行う。
- 平成 22 年度第 1 回定期総会＜決算総会＞は平成 22 年 5 月 21 日(金)に神戸ポートピアホテルを会場として開催予定している。第 2 回総会および代議員会の開催日程は未定である。
- 無料職業紹介については、検査技師へ貢献するよう引き続き事業の推進を図る。
- 自然災害被災会員に対して共済規定による次年度会費減免措置に対応する。
- 共済事業については、日臨技リンクスの特性を活かした互助制度を確立させるよう事業展開する。引き続き、全会員に対し普通傷害保険に加入するとともに団体普通傷害保険への加入促進を図る。
- 日臨技リンクスおよび臨床検査技師賠償責任保険の会員全員加入へ向けての準備を開始する。
- 表彰事業については、関連団体などとも連携した事業として展開する。

### ◇ 財政経理部 ◇

- 会員数は増加している一方、賛助会員は減少傾向にあるが、今後も効率的且つ堅実な財務運営に努める。当会の会費納入は規定による「前納制」であり、継続会員の前納の確保に努力する。12 月末日現在で 1,214 名が会費未納者であり、退会処理も未処理となっている。これらの従来からの問題点を考慮し、会費などの納入に関する自動引き落としの具体化を図る。
- 公益法人制度改革を考慮し“公益認定”を念頭に中科目名を改定してきたが、業務再編も視野に入れ特別会計を含んだ対策を推進する。

- 従来通り、国民健康増進に関する事業に積極的に対応し、国民の健康福祉に寄与する公益事業継続に対応するとともに「会益」を考慮した公益事業、また、新規事業や重点事業に関し積極的な対応に努める。

- 臨床検査標準化事業については、3 年計画の進捗を検証し、その結果に立脚した新たな事業を展開する。また、会員の資質向上を通じて、国民に安全な医療を提供できるような「真の e-ラーニング」の実現に対応する。

- 地区・都道府県技師会への助成金は適切且つ効率性に富んだものとなるべく検討する。

### ◇ 組織制度部 ◇

- 公益認定をも睨み、早急に定款並びに諸規定の整備を行う。
- 国民を対象とした衛生思想並びに臨床検査の普及啓発を推進するべく「日臨技公益目的推進事業」として全国展開を視野に入れた事業展開に努める。具体的には、世界医学検査デーにおける臨床検査の普及啓発活動、乳がん撲滅月間啓発活動、全国糖尿病週間・世界糖尿病デーにおける生活習慣病の予防啓発、臨床検査の普及啓発活動である。

- 従来の、世界エイズデーにおけるエイズ予防啓発活動と並行して若年層の STD 撲滅キャンペーンの実施について都道府県技師会の事業推進に向けた支援体制構築を前年同様に展開する。具体的には、教材の作製と使用などや、取り組みやすい集会形式、学校等に講師が出向しての講演会などである。

- 医療安全推進週間に併せて、医療安全に対する意識の向上と臨床検査安全管理責任者としての職責の認識を図ることを目的に、医療安全管理者育成研修を企画・実施する。

### ◇ 情報調査部 ◇

- 第三次マスタープラン並びに平成 18 年度 ICT 戦略委員会提言書に基づく事業展開を図る。平成 18 年度 ICT 戦略委員会提言書に基づき、ICT 社会における検査技師のプレゼンス向上を目的として、臨床現場の臨床検査技師、養成課程の情報教育担当者、

学生を対象とし、ICT 技術と基礎知識体系を技師養成課程カリキュラムを踏まえ「臨床検査技師のための情報技術ガイド」を作成するとともに、同ガイドに則った研修会を開催したい。

- 新年度は、広報活動に重点を置くとともに、日臨技のマーケティング機能を充実したい。具体的には、テレビ、ラジオなどのスポンサー等、マスメディアの有効利用を考えたい。

- 組織調査に関しては、引き続き日臨技発行の指針等を実際に導入した事例の収集、各種アンケートの分析、それらを基にしたナレッジ・データベースの構築を図りたい。

- 「新公益法人を見据えた情報システム構築」に基づき検討し、作成された再構築案を基に新 JAMTIS 開発に着手したい。47 都道府県になるべく簡単に利用してもらうことを主旨とし、VPN は PPTP のネットワーク端末接続形態をとり、処理画面は Web ではなくアプリケーションとしたい。精度管理用施設コードと JAMTIS 施設コードが異なって運用されているが、厚労省使用の施設コードと統一を計り、各種統計資料の精度を向上させたい。

- 国民のための検査に関する安全と安心に関する意識並びに実態調査等をホームページの活用により展開したい。パブリックコメントや意識調査等、一般国民を対象とした調査を展開したい。

- ホームページの充実を図りたい。具体的項目としては、＜エイズ撲滅キャンペーン＞

- ・ポスターをホームページに掲示する。
- ・現在、エイズ関係のページが無いので作成する。

＜一般向けキャンペーンページについて＞

- ・エイズ、生活習慣病、乳がん、大腸癌等一般向けに通年ホームページに掲載するページをする。

＜精度保障のページについて＞

- ・バナーを作成しは現在掲載文書、追加文書を掲載していく。

＜高校生、技師学校向けページについて＞

- ・現在コンテンツが少ないので作成する。「臨床検査技師を目指すあなたへ」のページにビデオライブラリのリンクを張り、充実を図っていく。

- 「e-ラーニング」の導入と安定稼働、更に、ライブラリーの追加、ビデオ教材の充実、会員からの意見公募や各種 Q&A などの対応を目的とした掲載版の開設・運用を開始したい。

### ◇ 精度保障事業部 ◇

- 平成 22 年度臨床検査精度管理調査は、検体検査管理加算算定に向け、基本項目として加えた“微生物塗抹検査”“輸血 A”“ヘモグロビン A1c”を充実させる。

- 1) 名実ともに本邦における臨床検査精度管理調査の牽引車となるべく同調査参加施設増加を図りたい。

- 2) 昨年に続き、日臨技精度管理調査総報告会を開催したい。

- 臨床検査データ標準化事業の 3 年間の実績に基づき、各都道府県技師会におけるデータ標準化の実践を推進したい。また、健診データの標準化を目指し「健康日本 2 1」および「特定健診・保健指導プログラム」との連携を強化したい。更に、データ標準化の継続的推進に向けた情報システム・検査室精度保証認証制度・ガイドラインを構築したい。

- 日本臨床検査標準協議会標準化基本検討委員会、特定健診関連検査の標準化検討専門委員会の事業に参画するとともに関連情報の収集を図りたい。

- 日本医師会精度管理調査事業に臨床検査の専門職種として参画したい。

### ◇ 教育研修事業部 ◇

- 生涯教育研修制度は、各種認定ならびに情報調査部所管の e-ラーニングを最大限活用し、都道府県技師会との連絡を密にし、より多くの会員がより高度な研修が受けられるよう体制の確立を図りたい。

- 前期は検査研究各部門に担当理事を配置し部門員からの意見が直に聞ける体制を組んだ。これを生かし事業を活発化させるためにも各都道府県技師会に協力を仰ぎ更なる強化を図りたい。